



あなたの「承認」が、生徒の「自己有用感」を引き出す！



# 発達支持的生徒指導の実践

## 課題 なぜ、「自己有用感」なのか？

- ・ コロナ禍を経て、人間関係の希薄化や、主体性の低下が多くの場面で浮き彫りに。
- ・ 教師の「貢献の承認行動」が、生徒の「自分は誰かの役に立っている」という「自己有用感」を促し、人間関係や主体性を育む。

## 手立て「行事プチ目標」と「振り返り」



- ・ 行事プチ目標：  
行事で「他者のためにちょっとだけ頑張れそうなこと」を考える。
- ・ 振り返り方法：  
「行事振り返りシート」に記入する。

## 手立て「うれ調しら（うれしかったこと調査）」

日常の「うれしかったこと」を短い文で記録する。

授業で〇〇の問題を自分の力で解くことが、できた！  
自分の成長...

〇〇さんが～～してくれて、うれしかった！  
他者との関わり...

## 教師のフィードバック「貢献の承認行動（見守り・言語化・感謝）」

(新元・蘭・越)

- ・ 生徒が何気なく行った他者への貢献や、生徒自身の成長を、教師が積極的に認める。
- ・ 生徒に「安心感」と「所属感」が生まれる。

あなたたちの行動のおかげで、集団が助けられているよ

例えば...

毎回欠かさず部活動に参加していて、偉い！

朝早く来て練習した甲斐があったね

やっぱり、〇〇なところがあなたの「よさ」だね

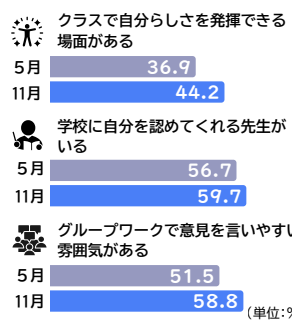
自分も、誰かの役に立っていたんだ！

自分にはこんな「よさ」もあるのか...

## 実践の効果

- ・ 生徒の89.4%が、他者から「よさ」を見つけてもらうことができた。
- ・ 生徒の100%が、他者の「よさ」を見つけることができた。
- ・ 教師への「信頼感」が向上した。

生徒の意識変容（5月・11月）



その他の変容結果は、研修報告書にて公開中！

## 生徒の言動を「よさ」として捉える

リフレーミング（※）による肯定的な捉えが「よさ」を伸ばします。

やはり大切

※リフレーミング・・・リチャード・バンドラーとジョン・グリーンダーによって提唱された物事の認知をポジティブな枠組みで捉え直す心理学的手法。

## 成果だけでなく「過程」を価値付ける

頑張った結果だけでなく、頑張っている「過程」を認める指導が「可能性」を伸ばします。

研修報告書、「行事振り返りシート」、「うれ調」の詳細はこちら

